

名建築再生!!

古い建築物は地域の資産と考えるべき
活用法を考えるのも地方自治体の手腕

上京区に大正時代の建築で国有形登録文化財の「NTT西日本京都支店西陣別館」というのがある。これは長い間有効活用されていなくて気になる存在だったのだが、京都府の働きかけにより、この夏からベンチャー企業を対象に低賃金で事業スペースとして貸し出すことになった。これまで京都府は空き家となった西陣の町家をIT系ベンチャーに貸し出す作業を推進してきたが、高速通信回線の整備の遅れなどでうまく進んでいなかった。しかし、今回はなんとといってもNTTのハコ!大正ロマンあふれるルックスに最新通信設備導入が期待でき、話題になりそうだ。
かたや京滋では豊郷小学校の取り壊し騒動のように、活用できずにあえなく消えていく名建築が多い。確かに古い建築物は維持が大変。しかし、それが将来、地方自治体の象徴や財産となるのもまた事実。これら歴史ある建築物を、資産としていかに活用できるかどうかで、行政の手腕が問われるのが、これからの地方自治では?

いまだきよの歴史

一番新しい日本の一ページ

英語教師変身

パズル・クイズ仕立ての英語教育に「心」が組み込まれるのはいつになる?

教材はもちろんアメリカ風にするのは!?

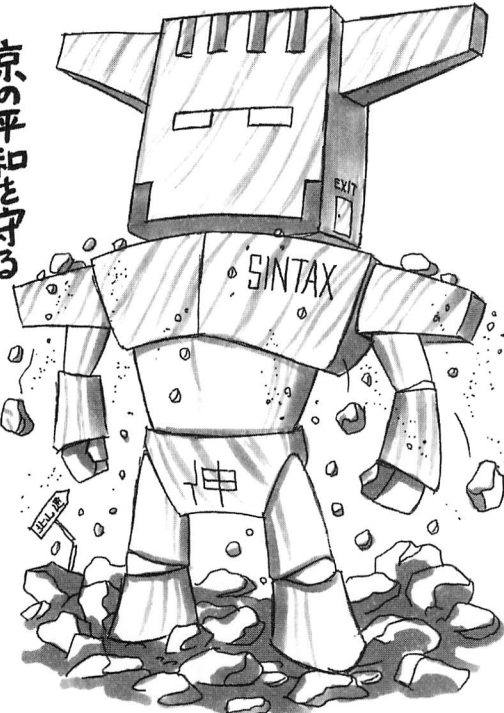


英会話の教師もこの人(のクローン)にして

文部科学省が去年、「高校卒業段階で英会話ができる」という教育方針を固めたが、今回は京都市教育委員会が市立の中学・高校の全英語教員を対象に今春から英語力強化研修を行う方針を明らかにした。内容は年間10日「日本語禁止」の英語集中研修の実施と、TOEFL受験の義務づけとなる。
高校までの英語教育はつきつめてみるとひたすら日本語を英語に、英語を日本語に置き換える作業ばかり(だって、試験の設問からして日本語だもの)。英語を使う際、思考はあくまでも日本語がベースのまま。言葉は自分や相手の意志・意見を伝えるためのもので、学問だけのためのものではない。それを無理やりパズルやクイズのような教育体系にするから英語を使えない人や英語が嫌いな人が増えるのだ。日本の「英語と称する科目」と「英会話」はまるで別モノ。「英会話」を学ばせたいのなら、英会話教師を全員ネイティブスピーカーにすべきだ。そして、教員の英会話力向上を狙うなら、「外国人と寝食を共にする」とか、相手の文化や思想に触れられる生活をベースとした研修にしないと。

西暦2222年。SINTAXが

京の平和を守るロボットとして再生!!



極秘に宇宙計画... 目撃情報 相次ぐ...?



あゝあれがこれ、連邦の新兵器

宇宙連邦

ひとりよがりな宇宙計画と、その失敗 教訓を活かすなら世界単位で再挑戦を

スペースシャトル「コロンビア」が空中分解し、7人の宇宙飛行士が犠牲となった。宇宙開発関連で亡くなった人は全世界で21人。このうちなんと14人がスペースシャトルによるものだ。近年、米国の宇宙開発費用は10%以上の単位で年々大幅に減少していた。今回の事故は、米国の「国威昂揚」と「軍事力強化のために削減された宇宙開発費・人員の合理化が招いた事故」だったのではないのか? 宇宙開発開始当時は米ソ冷戦という動機があったが、今はあくまで国際平和の象徴であるべき。医学、科学の発展のための実験を行うなら、もっと各国の協力をあおぐべきだろう。米国が国際情勢を揺さぶっている限り、米国主導のひとりよがりなスペースシャトル計画は凍結すべきだ。そして、世界中の先進国がこぞって参加・協力するという形で今後のスペースシャトル計画を再開してほしい。そうすれば、今後も世界中の子供たちが宇宙飛行士の夢を抱いてくれるのでは?



文◎大塚 祐希
1200年の古都・京都から、突然5000年前の超古都・イスラエルに渡り情報を発信中。一歩距離を置いたところから今の日本、そして京都の今を見つめ、未来を切り開くことができるか? ウェブサイトは <http://www1.ocn.ne.jp/tsukapon/>



イラスト◎両口 和史
1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP◎<http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi>